

## 倫理的ジレンマを考える

事例⑨ 患者の間食を目撃してしまった看護学生 を読んで

### 1. 看護学生のJさんはどのようなジレンマを感じているのか。

倫理的ジレンマとは：倫理原則を全て満たそうとしても、あちらをたてればこちらがたないといった状態のこと

Iさんにとって、食事療法は重要であり、間食はやめてほしい。そのためには看護師に間食を報告し、解決策を見出していくことは患者にとって良い看護となる（善行の原則）

しかし、「看護師には言わないでほしい」というIさんとの約束を破り、同意のないまま看護師に報告してしまうと、自律尊重の原則、誠実の原則、忠誠の原則に反してしまうことになる。

そのため、間食について看護師に報告しても、しなくてもIさんに不利益をもたらす可能性があり、倫理的ジレンマが生じている。

### 2. なにをなすべきか

#### 1) なぜ、Iさんは「看護師には言わないでね」と言っているのでしょうか？

食事療法を実行できない自分がわるい、自分自身が情けないと感じている。また、間食をやめたいのにやめられないという困難を看護師に伝えることができていない。

#### 2) 看護学生のJさんは、Iさんのどんなことに関心を向けるべきだと思いますか？

Iさんがなぜ、看護師に言わないでと言っているのかを考える必要がある。そのためには「間食をしていること」を問題にするのではなく、どのような食生活をこれまで送ってきたのか、どういうときに間食をするのかなど、Iさんの生活やIさん自身の思いに関心を寄せることが大切である。

#### 3) どのようにIさんと向き合っていけばよいと考えますか？

一方的にIさんを指導するためではなく、IさんがIさんらしく生活していける方法を、専門家である看護師の力を借りながら一緒に考えていく必要がある。そのためには、そのことをIさんに伝え、承諾を得ることが大切となる。

看護者自身が倫理的ジレンマに率直に向き合い、解決する方法をあらゆる面から考え抜いていく努力をすることが患者にとってのよりよい看護につながる。

\*テキストをしっかりと読んで考えて書かれている人と、頑張っって具体的に書こうと思ったけども、具体策が考えられずに簡単になってしまった人があったように思います。もう一度テキストをよく読んで、自分の考えをしっかりと整理しましょう。